

僕は、第75回全日本中学校弁論大会に出場して、特別な経験をさせていただきました。

全国に友達を作り、東京の大学生の方と仲良くなるなど、交流の面でもなかなか経験できないことをさせていただきました。大会では、地区、県を勝ち抜いた出場者の中に混じって、弁論大会に参加できたことをとてもうれしく思います。実際に全国という舞台でスピーチをしてみて、今までに感じたことのない緊張感を味わうことができました。この大会を通して、大勢の人の前で堂々と立つということができました。以前は、人の前で話すことなどがあまり得意ではなかったため、今大会を通してその部分を成長させることができました。

また、出場者には受験生が多く、勉強や将来何がしたいかなどを聞く機会が多かったため、たくさんの刺激を受けることができました。

この大会に出場できたのは、英語の先生をはじめ、学校の先生方、ALTの先生方、病院関係者の皆様、そして両親、たくさんの方々のサポートのおかげです。どれだけ期待に応えることができたかわかりませんが、自分の中ではベストなスピーチができました。この経験を無駄にせず、これからの人生で生かしていけるように感謝の気持ちを忘れずに、頑張っていきます。このような機会をいただきありがとうございました。

えびの市立上江中学校 鶴内俊丞

まず宮崎県中学校英語弁論大会の準備及び運営に携わっていただいた先生方、関係者の方々、誠にありがとうございました。夏休み前から生徒と始めたスピーチ活動が、地区大会、県大会、そして高円宮杯に至るまで4ヶ月も続くとは想像もしていませんでした。

振り返るとまず取り組んだことは、伝える内容を広げ深めるために、決めたテーマに関する調べ学習、医療従事者へのインタビュー活動、体験活動等、知識と経験を積ませることでした。そこから英文を完成させ、覚えさせながら、平行して学校の先生方や高校生、ALTの先生方など様々な方に発表を聴いていただきコメントや助言をいただきました。「伝わる」スピーチとはどのようなものか、この4ヶ月で生徒と一緒に多くのことを学び、経験することができ、関わってくださった方々へ感謝の思いが尽きません。

そして4年ぶりに通常開催された高円宮杯で、全国の中学生が様々な問題やテーマについてスピーチする姿を見て、その内容、表現力に感動するとともに、自身の英語力、指導力をもっと磨かなければと気持ちを新たにすることができました。すべての方々に対する感謝の思いを胸にこれまで以上に英語を楽しみ、学び続けていきたいと思えます。また生徒と共にあの舞台に行く日に向けて。

えびの市立上江中学校 西村伸貴(指導教員)